

製品名: CD81 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08465**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	26kDa

抗原情報

遺伝子名	CD81
別名	CD81; TAPA1; TSPAN28; CD81 antigen; 26 kDa cell surface protein TAPA-1; Target of the antiproliferative antibody 1; Tetraspanin-28; Tspan-28; CD81
遺伝子 ID	975.0
SwissProt ID	P60033
免疫原	抗血清はヒト CD81 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 111-160

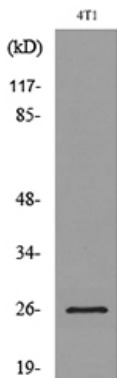
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、膜貫通型 4 スーパーファミリー (テトラスパニンファミリーとも呼ばれる) のメンバーです。これらのメンバーのほとんどは、4つの疎水性ドメインの存在を特徴とする細胞表面タンパク質です。これらのタンパク質は、細胞の発達、活性化、増殖、および運動性の調節に関与するシグナル伝達を媒介します。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、インテグリンと複合体を形成することが知られている細胞表面糖タンパク質です。このタンパク質は、筋細胞融合を促進し、筋管の維持をサポートすると考えられています。また、シグナル伝達にも関与している可能性があります。この遺伝子は腫瘍抑制遺伝子領域に局在するため、悪性腫瘍の候補遺伝子です。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2つの転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2014年7月]、機能: リンパ腫細胞の増殖制御に重要な役割を果たす可能性があります。16kDaの Leu-13 タンパク質と相互作用し、シグナル伝達に関与する可能性のある複合体を形成します。HCVのウイルス受容体として機能する可能性がある。、PTM: 糖鎖修飾されていない。、類似性: テトラスパニン (TM4SF) ファミリーに属する。、サブユニット: HCV E1/E2 糖タンパク質ヘテロダイマーと相互作用することにより、HCVの付着および/または細胞侵入に重要な役割を果たす。IGSF8と直接相互作用する。、組織特異性: 血液リンパ系、神経外胚葉系、および間葉系腫瘍細胞株。、

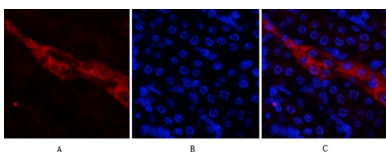
研究分野

B細胞抗原;

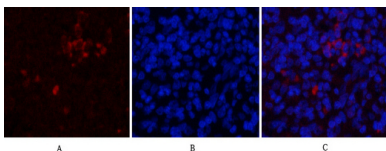
画像データ



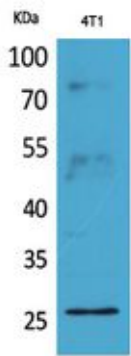
CD81 抗体を使用した 4T1 細胞の溶解物のウエスタン プロット分析。



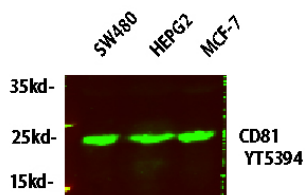
マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, CD81 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, CD81 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



CD81 ポリクローナル抗体を用いた 4T1 細胞のウェスタンブロット解析。抗体は 1:2000 に希釈した。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



HT-29、NIH/3T3、および HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。CD81 ウサギ ポリクローナル抗体は 1:1000 に希釈され、4° で一晩処理され、二次抗体は 1:10000 に希釈され、37° で 1 時間処理されました。